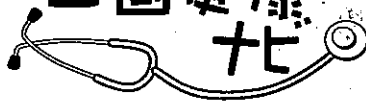




骨が急速に壊された
りします。

歯周病は、歯と歯茎の境界部に歯垢(細菌のかたまり)が蓄積した結果、歯周ポケットが形成され、炎症が歯周組織全体に広がる病気です。歯周病が進行すると歯のまわりの歯槽骨が徐々に溶け、歯の支えが失われていきます。その過程で、歯茎が

四国健康七



徳島大大学院
永田 俊彦教授

血糖値管理から歯周病予防

歯周病は、歯と歯茎の境界部に歯垢(細菌のかたまり)が蓄積した結果、歯周ポケットが形成され、炎症が歯周組織全体に広がる病気です。歯周病が進行すると歯のまわりの歯槽骨が徐々に溶け、歯の支えが失われていきます。その過程で、歯茎が

歯垢が出たり、歯茎が腫れたり、歯が動揺したり、深いものがかめなくなったりして生活の質(QOL)が著しく低下します。歯周病のなりやすさには、生活習慣、遺伝、特定の病気が関係します。歯周病と最も深い関係のある病気が糖尿病です。糖尿病の人は健康者より2〜3倍多く歯周病にかかりやすく、さらに重症化しやすいと言われています。糖尿病の人の歯茎では、白血球機能の低下や組織修復能力の低下が認められ、炎症が広がりやすい状態になっています。その結果、歯茎が何層も腫れたり(多発性膿瘍)、歯槽

骨が急速に壊されたりします。血糖値がコントロールされていない人や糖尿病性腎症などの合併症をもつ人の場合は特に要注意で、重度の歯周病が発症しやすい傾向があります。血糖コントロールが不十分な糖尿病の人は、歯周病の治療をしても効果が少なく治療も遅れますので、歯科医院での治療は歯周ポケット、洗浄などの対症療法に終始してしまいます。本格的な歯周病治療を受けるためには、まずは糖尿病の治療を優先させ、血糖値を安定させることが重要です。最近、歯周病を治療することで血糖値の指標であるヘモグロビンA1cの値が平均0.4%低下するという知見がメタ解析という分析方法で明らかにされました。その理由として、歯周病の局所に存在する慢性炎症病巣が取り除かれると、全身をめぐる炎症性因子の量が少なくなり、インスリン抵抗性が改善した結果、ヘモグロビンA1c値が低下すると考えられています。このように、糖尿病の人が歯周病の治療を受けることによって糖尿病の状態も一部改善することが明らかになり、歯周病の治療は口腔の健康だけでなく全身の健康の改善にも貢献すると考えられています。